天寧寺だより
玉琳

発行：玉琳山 天寧寺
〒460-0018
名古屋市中区門前町3-21
TEL 052(321)5865
FAX 052(324)8079
メール tenneiji@road.ocn.ne.jp
郵便振替 00870-1-30614
発行人：副住職 大野俊人

天寧寺ホームページ　天寧寺インスタグラム

お盆

ご先祖様への感謝を

今年もお盆の季節が近づいて参りました。感染症も収束に向かい、徐々に以前の生活を取り戻しつつあります。

お盆とは盂蘭盆を略したものです。諸説ありますが、盂蘭盆とはインドのサンスクリット語の「ウランバナ」を漢字に当てはめたもので、逆さ吊りという意味です。

お釈迦様の十大弟子の一人である目連尊者が、亡き母の姿を神通力（見えないところを見通す力）で見たところ、なんと餓鬼道（食物が自由にならず、飢えに苦しむ世界）で、痩せ衰え逆さ吊りになって苦しんでいました。驚いた目連尊者はお釈迦様に相談をしました。そこで、自分には優しかった母が、我が子さえ良ければ、という自己中心的な幸せだけを願い、他の人に対して施しを行わなかった結果、餓鬼道で苦しんでいることを知りました。するとお釈迦様は、僧侶の修行が終わる旧暦の七月十五日（八月十五日）に百味の飲食を供養すれば、その功徳によって母は救われるであろうと諭されました。それによって母は餓鬼道の苦しみから無事に救われました。

この故事により、自分たちのご先祖様の中にも目連尊者の母のように餓鬼道に堕ち、逆さ吊りになり、成仏できず苦しんでおられるかもしれませんので、真心を込めて先祖供養を行うようになりました。

このお釈迦様の教えが、今日までお盆の行事として続いています。

お盆とは、亡くなった方を尊び供養することだけではありません。私たちは一人では決して生きていけません。自己を取り巻くすべての人や物や環境などのお陰で生きています。生きていくために限りなく多くの恩恵を頂いています。私たちがこうして生かしていただいているのは、ご先祖様をはじめ、過去の世の人々、今現在の私たちを支えて下さっている方々、私たちの命を養うために命を頂いた牛や魚や野菜などのお陰です。その全ての人々や物に感謝し供養します。

お盆の施食会では、施食棚の中央に「三界萬霊等」と書かれたお位牌をお祀りしています。三界とは欲界（人間欲の世界）、色界（物質だけの世界）、無色界（心だけが生きている世界）の三つをいい、私たちが生まれ変わり死に変わりするこの世界のことです。万霊とはありとあらゆる精霊のことです。先祖供養と共に有無両縁の精霊にも供養することにより自然と自らの心も豊かにします。

お盆休みはご先祖様をはじめ有無両縁の精霊に供養するためのお休みです。ご先祖様がお帰りになるから、外に出ている子や孫、家族の皆が家に帰って集まってご先祖様に感謝するのがお盆です。今年のお盆は二度とやってきません。良いお盆をお迎え下さい。

心の拠り所

お寺とは仏法僧の三宝があるところです。仏様がおられ、法すなわち教えがあり、その教えを伝え広める僧（お坊さん）がいるところです。

そして、この三つを宝として生きていく。そういう価値観をもつ者の集いが仏教徒です。

例えばですが、博物館に行き国宝の仏像があったとしても、博物館をお寺とは言いません。図書館に行き経典に書かれた教えがあったとしても、図書館をお寺とは言いません。僧とは仏と法を学ぶものです。学ぶというは人と和合し、教えを広めていくことです。

道元禅師は『修証義』第三章で、仏法僧の三宝を、心の帰依の的として示されています。

仏は是れ大師なるが故に帰依す

（仏様は偉大なるお師匠様です）

法は良薬なるが故に帰依す

（教えは良く効くお薬です）

僧は勝友なるが故に帰依す

（僧は勝れたよき友達です）

「帰依」とは、仏の家に帰り、仏の心に帰ることです。私達は、最後に身体を休めるところがあるから、安心して働けます。旅行をして、ご馳走をお腹一杯食べ、楽しく過ごしていても二、三日経つと家に帰りたくなります。それは、我が家が一番心の落ち着くところだからです。帰依とは、我が家に帰るのと同じように、仏の家に身も心も投げ入れ、仏様を心の底から信じることです。

家庭の崩壊、断絶という言葉をよく耳にしますが、心の拠り所を失ってきたためではないでしょうか。我々は生きていく中で沢山の問題に遭遇します。人間関係のトラブルや仕事の失敗などにより気持ちが落ち込み、心にわだかまりが出来てしまうことがあります。

そんな時こそ、仏壇の前に座り仏様やご先祖様に対峙し、思いの丈を打ち明けて下さい。仏壇の前では正直な自分の心、素の自分が見えてきて、その中で気付くこともあるはずです。すると、いつの間にか心は穏やかになり、気持ちも前向きになります。仏壇がない場合は、お寺にお参り下さい。手を合わせお参りすることは、心を調え、心の拠り所を得ることでもあるのです。

お参りや、時には写経や坐禅をして自分と丁寧に向き合う時間を持つことも大切です。悠久の時の流れの中に存在する自分の在りようを客観的に認識することが出来ます。

また、あらゆるものに感謝をすることにより自分を満たし直すことができ、現代人が失いつつある自己肯定感を高めてくれます。

天寧寺が皆様の心の拠り所となれるよう、日々精進して参ります。

人間として生を得るということは、仏様と同じ心、「仏心」を与えられてこの世に生まれたと、道元禅師はおっしゃっておられます。「仏心」には、自分の命を大切にするだけでなく他の人々や物の命も大切にする、他人への思いやりが息づいています。しかし、私たちはその尊さに気づかずに我がまま勝手の生活をして苦しみや悩みのもとをつくってしまいます。

人間の身体を授かったことは、得がたいことで千載一遇の奇蹟です。一億円の宝くじが百万回連続当選するに等しいほどの確率だそうです。だから、この大切な命を一瞬たりとも無駄にすることなく生きなければなりません。

人生なんてあっという間です。いつまでも自由に動くと思っていた身体も、いつの間にか自分の思い通りにならなくなってきます。病気や老いで身体が不自由になったときに、はじめて身体が自分のものではなく、借り物であることに気づきます。

また、誰もが生まれ老い病み死にゆく運命にあるので死を避けて通ることはできません。明日の命は誰にも分かりませんが、私たちは仏様の命を頂いて生きています。

お釈迦様の教えを信じ、その教えに導かれて、毎日の生活の中の行い一つひとつを大切にすることを心掛ければ、身と心が調えられ私たちの中にある「仏の心」が明らかとなります。

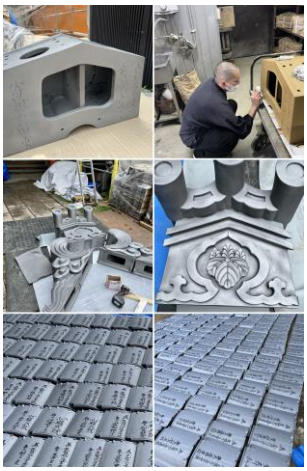
日々の生活を意識して、互いに生きる喜びを見いだして下さい。

今ここに生きていることの尊さと有り難さに気づいたとき、自然と感謝の気持ちがわいてきます。

本堂改修工事ご報告

この度は、本堂の耐震改修工事に対し、多大なるお力添えをいただきまして誠に有難うございます。

皆様から寄せられた浄財は現在、八百万壱千円です。ご寄付を頂いた方のお名前や檀信徒皆様のお名前を、副住職が代筆し、本堂の新しい瓦や鬼瓦に書かせて頂きました。



瓦に寄進者の名前を書き屋根にのせました

今年の二月中旬より工事が進められ七月末に完了いたします。改修箇所は瓦屋根を乾式で葺き直し屋根を軽量化し、耐震補強のために八ヵ所に耐力壁を新設し、屋根裏にも筋交いを設けました。本堂奥の位牌堂は位牌が多く置けるように全面改修し、畳、建具、エアコン、須弥壇の新調、一部天井や床の張り替え、照明のＬＥＤ化、人天蓋、仏天蓋、幢幡、歴代住職、お檀家様の先祖代々の位牌を洗濯し金箔を押し直しました。

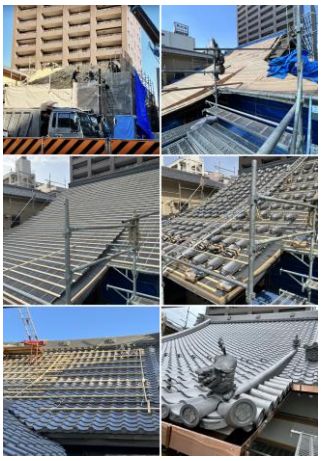
また、八月より本堂東側に、バリアフリーで本堂まで行ける客殿、庫裏と納骨堂を新築します。

全ての工事が完了しましてから改めてご報告させていただきます。

来年、七百回忌を迎える大本山總持寺を開かれた瑩山禅師は、僧侶やお寺と仏縁を結んでいただける檀信徒をとても大切に思い、檀信徒のお力添えがあってこそ寺院の護持発展が叶うことを、ことさらお弟子たちに説かれてこられました。仏法を未来に伝え、寺院を永劫に存続させていくためには、僧侶と檀信徒が和合和睦していかなければならない、ということを随所に諭されていました。

大変な時期にも関わらず、檀信徒様をはじめ信心の施主様のお陰で、天寧寺を護持することが出来ております。改めまして、心より御礼申し上げます。

合掌



本堂屋根の瓦葺き直しの様子

本堂内部の改修工事の様子

令和五年　本堂耐震改修工事　浄財寄進者御芳名

（天寧寺檀信徒様）

金壱百弐拾萬円也　岩田　東　殿
金伍拾萬円也　川瀬　幸久　殿
金参拾萬円也　猪飼　養泰　殿
金弐拾伍萬円也　川瀬よし江　殿
金弐拾萬円也　相川　真一　殿　青木キミ江　殿
金壱拾萬円也　長谷川治子　殿　盛川　耕　殿
飯田　信義　殿　宇野　强　殿
小出　法生　殿　近藤　誠男　殿
鈴木　恭雄　殿　髙田　学　殿
武村　寛保　殿　西雪　諭　殿
野田　俊　殿　早川　初子　殿
林　守雄　殿　水野　晃　殿
宮原　滋子　殿
金八萬円也　岩間惠子　殿　花輪忠和　殿
金伍萬円也　猪飼信子　殿　猪飼　實　殿　伊藤正治　殿
伊藤　隆　殿　岩田明美　殿　近藤暢克　殿
佐久間正人　殿　谷川幸一　殿　寺尾智子　殿
水谷さよ子　殿　山本康夫　殿
金四萬円也　岩川順一　殿
金参萬円也　安藤貢一　殿　加納志う　殿　川路康典　殿
北村伸一　殿　後藤多賀子　殿　近藤重利　殿
髙津こう　殿　中島　茂　殿　中平香代子　殿
金弐萬円也　保木本肇　殿
浅野輝子　殿　金子郁子　殿　川瀬正裕　殿
草深邦彦　殿　桑原康彦　殿　鈴木睦美　殿
高津達也　殿　中川文彦　殿　中島佳代子　殿
早川家子　殿　平井健司　殿　水谷英一　殿
金壱萬円也　青木　大　殿　安藤隆一　殿　飯田　章　殿
飯田彰一　殿　家田和典　殿　伊藤静子　殿
伊藤博美　殿　伊藤廣光　殿　伊藤正敏　殿
伊藤由紀子　殿　伊藤美保　殿　浦野暉高　殿
荻原栄助　殿　河村　誠　殿　北村裕貴　殿
近藤尚邦　殿　佐野美智子　殿　清水和子　殿
瀧川信顕　殿　田中方子　殿　中川清和　殿
中島静江　殿　中島知子　殿　中島みよ　殿
中平英紀　殿　新美智英　殿　丹羽ミツ江　殿
野崎竜也　殿　服部省治　殿　服部貴行　殿
花輪知幸　殿　花輪登代子　殿　林　繁次　殿
樋口路雄　殿　日澤昭人　殿　保木本誠　殿
堀田幸市　殿　前川雄介　殿　松井君子　殿
松崎　勝　殿　水谷紀代　殿　水野　允　殿
安井佳秀　殿　山田良子　殿　吉田正博　殿
若松地江子　殿
金伍千円也　糸井保雄　殿　伊藤　博　殿　伊藤光義　殿
大光敬史　殿　小川昭子　殿　鈴木一平　殿
中島佳子　殿　日比野芳子　殿
金参千円也　神谷俊二　殿　成田忠夫　殿
日比野逸郎　殿　水谷　学　殿　村上　良　殿
金壱千円　佐藤博司　殿

（三宝殿信者様）

金弐拾萬円也　青木　健　殿　小川　隆雄　殿
金壱拾弐萬円也　鍋内惠里子　殿
金壱拾萬円也　伊藤　和美　殿　大参　友子　殿
宮嵜　大昌　殿
金伍萬円也　恩田俊二　殿　柴田俊彦　殿
金参萬円也　稲垣治男　殿　佐野英夫　殿　澤崎　仁　殿
丹羽絹子　殿　松村幾子　殿　山田友宣　殿
辻井きく子　殿　樋口房枝　殿
金弐萬円也　加藤幹憲　殿　加藤洋子　殿　寺澤　正　殿
金壱萬円也　寺澤直樹　殿　中島　強　殿　早川輝一　殿
松原孝子　殿
酒井久吉　殿
金伍千円也

ご寄付はまだ受け付けておりますので、是非ご協力のほどお願い申し上げます。　合掌

郵便振替　００８７０－３０６－４　宗教法人　天寧寺

お盆の準備

精霊棚（盆棚）

精霊棚はお盆にお迎えする、ご先祖様に休んでいただくための特別な場所です。仏壇前に五如来幡（五色の幡）を吊り下げ、机などを置き、マコモや白布などを敷き、香炉やロウソク立てを置き、お仏壇から位牌を移します。

精霊棚は簡素化したものでも結構ですが、心からおもてなしする気持ちでお迎えしましょう。

お盆のお供え物

キュウリの馬とナスの牛。水の子（洗米とナス・キュウリをさいの目に切り混ぜたもの）や水向けの水、夏野菜や果物（桃はお供えしません）、そうめんなど。お花（ホオズキなど）をお供えします。

お盆の献立の一例

一日目（十三日）
（朝）お霊膳
（昼）お迎え団子・お水
二日目（十四日）
（朝）お霊膳
（昼）おはぎ・そうめん・お水
三日目（十五日）
（朝）お霊膳
（昼）お団子・お水

お霊膳（霊供膳）

お盆やお彼岸、ご先祖様の命日等にお膳を供えします。飯椀（ご飯）・汁椀（味噌汁）・壷椀（煮豆類）・平椀（煮物類）・高皿（和え物・漬物）の五種類です。ご飯を仏様の方に向け、精進物とし肉や魚や匂いの強い野菜（ネギやニラやニンニク）はお供えしません。

↓
仏様側にご飯がくるように

迎え火と送り火

十三日の夕方に、門口でご先祖様を迎える火を焚き、あの世から戻ってくるときの目印として。十五日の夜にあの世へ迷わず帰れるようにと願い送り火を焚きます。

令和五年　行事予定

八月十一日（金）山の日
お盆墓経　八時～十三時
永代供養墓合同供養　十三時～

八月十七日（木）十三時～
施食会（天寧寺本堂）

九月十八日（月）敬老の日　十三時～
永代経（天寧寺本堂）
「永代経」申込者の合同供養です。永代供養墓に納骨されている方のご供養ではございません。

九月二十三日（土）秋分の日
秋彼岸会墓経　八時～十三時
永代供養墓合同供養　十三時～

十二月十五日（金）九時～十四時半
三宝大荒神　大祭（天寧寺三宝殿）

＊天寧寺霊苑　永代供養墓合同供養
十三時～　合祀墓
十三時十五分～　個別墓
十三時半～　樹木葬

＊写経会　毎月二十八日十五時～
（七月、十月はお休みします）

令和五年　年回表

一周忌　令和四年
三回忌　令和三年
七回忌　平成二十九年
十三回忌　平成二十三年
十七回忌　平成十九年
二十三回忌　平成十三年
二十七回忌　平成九年
三十三回忌　平成三年
三十七回忌　昭和六十二年
四十三回忌　昭和五十六年
四十七回忌　昭和五十二年
五十回忌　昭和四十九年

＊八月のお盆明けより本堂で法事をお勤めさせていただきます。

名古屋市千種区 平和公園内 天寧寺霊苑 永代供養墓

樹木葬　二霊　五十五万円

＊個別区画へ最終納骨後１７回忌経過しましたら樹木（ハナミズキ）の下へ合祀　合祀後も永代供養
改葬での納骨も承ります

個別墓　二霊　六十八万円

＊五輪塔型個別墓へ最終納骨後３３回忌経過しましたら永代供養合祀墓へ合祀　合祀後も永代供養
改葬での納骨も承ります

合祀墓　一霊　二十五万円

＊皆様のご遺骨と一緒に合祀墓へ納骨　墓誌に戒名等を彫刻し永代供養
（墓誌への彫刻無は20万円）
改葬での納骨も承ります

名古屋市平和公園の入口の好立地で緑や花に囲まれた明るい霊苑です
新規墓地区画募集中
＊檀信徒様以外も使用可能で宗派不問です。
詳しくは天寧寺ＨＰまで